

新たな採苗方式で病害虫リスクのきわめて低い苗を安定生産できるようになりました

背景

いちごで最も問題となる「炭疽病」が発生しない北海道は苗生産に有利。
 ▶しかし、従来の『リレー苗方式（本州産の親苗を道内で増殖する方法）』
 では病害発生が大問題！

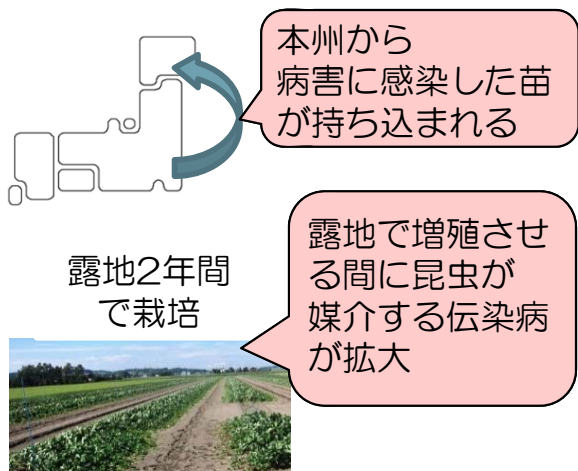
成果

親苗から一貫して生産する新方式の開発（自立型採苗方式）

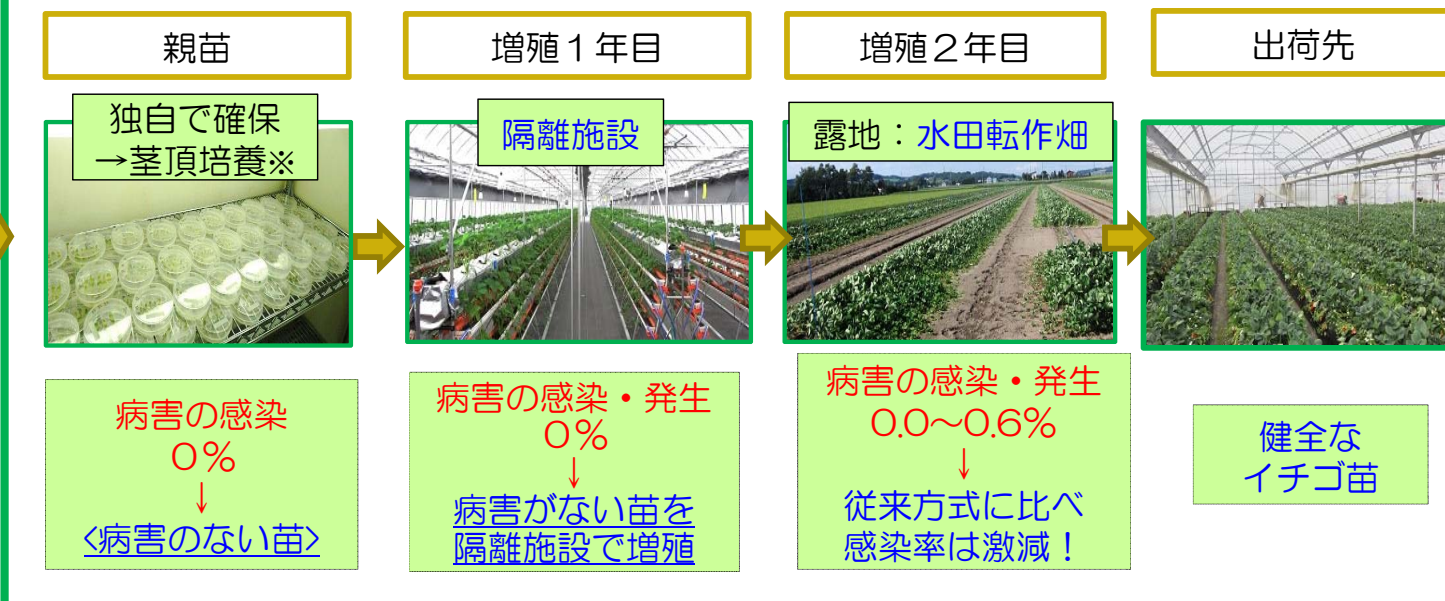
- ＜特徴＞ ①病害の危険性がない苗の使用
 ②隔離施設と病害感染リスクの少ない水田転換畑での増殖

＜新方式ではどの生産段階でも病害虫汚染リスクがきわめて低い！＞

従来方式（リレー苗方式）
のリスク



新方式（自立型採苗方式）による苗生産



※茎頂培養：茎の生長点を切り取って培養し苗を作る。ウィルス感染を防ぐことができる

期待される効果

- 水田地帯で、健全ないちご苗の安定生産が可能となります。
- 健全な苗を供給することにより、生産・販路の拡大を図ることができます。